令和４年度指定管理鳥獣捕獲等事業（ニホンジカ）の捕獲と生息状況調査の結果

指定管理事業および生息状況調査の結果については保護管理ユニット単位でとりまとめる。

１　捕獲の実施結果

１－１　令和４年度事業における捕獲結果

- 119 頭を捕獲し、目標捕獲数 100 頭の約 1.2 倍の捕獲を得た。
- ユニット別 CPUE では I4 が最も大きく 8.16、次いで I5 で 6.71 だった。
- 大多喜町は市原市と比較して CPUE が 4.91 と大きかった。
- O10（大多喜町）では 42 頭捕獲されたが、幼獣は捕獲されなかった。
- 成獣メス割合は市原市の４ユニットでは 20～30%で、大多喜町の O10 では 64.3%となった。

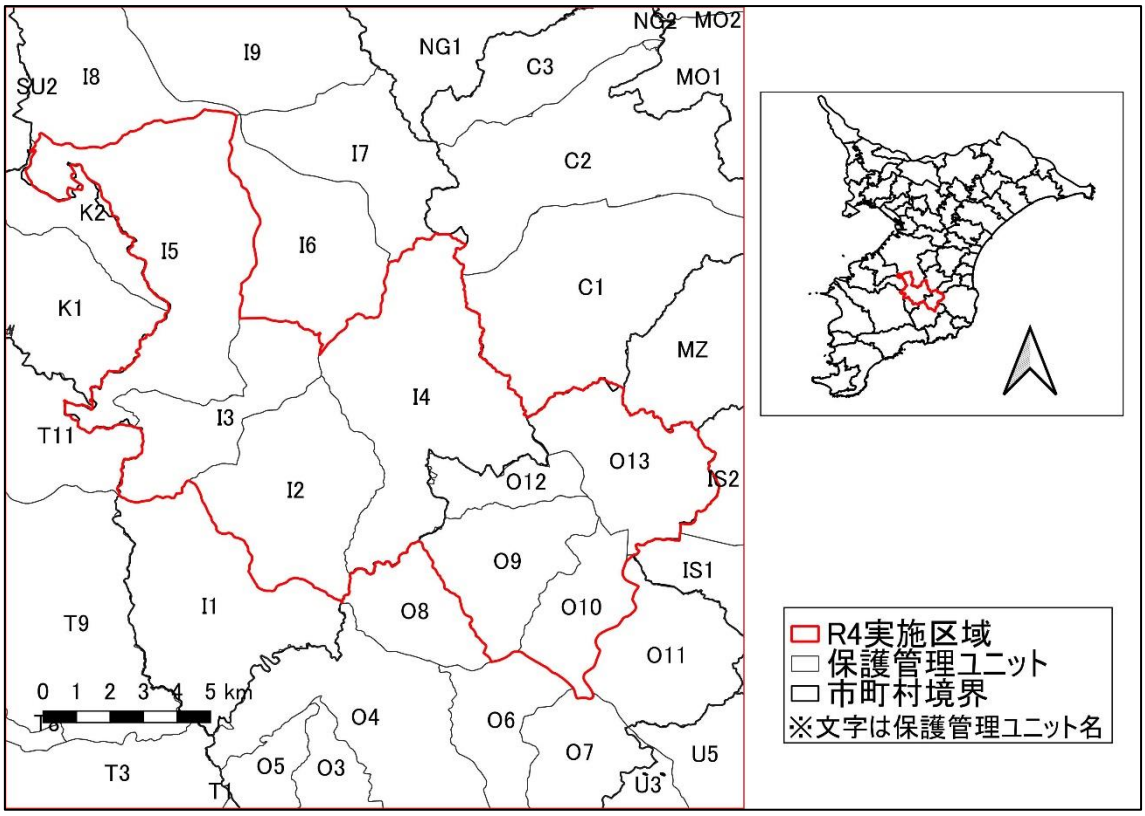

図１－１　事業区域および周辺の保護管理ユニット

表１－１　ユニットごとのわな捕獲の作業及び捕獲状況

市町村	ユニット	わな日	捕獲数	CPUE	空はじき率(‰)	成獣メス割合（%）	幼獣割合（%）	オス割合（%）
市原市	I2	4,020	20	4.98	－	25.0	40.0	40.0
	I3	3,144	10	3.18	－	20.0	20.0	60.0
	I4	1,716	14	8.16	－	21.4	35.7	50.0
	I5	4,916	33	6.71	－	27.3	30.3	57.6
大多喜町	O10	8,560	42	4.91	－	64.3	0.0	35.7

※わな日はわな数×わな稼働日数により算出した

※CPUE は（捕獲数/わな日）×1000

※ユニット単位の空はじき回数が得られなかったため、空はじき率は算出していない。

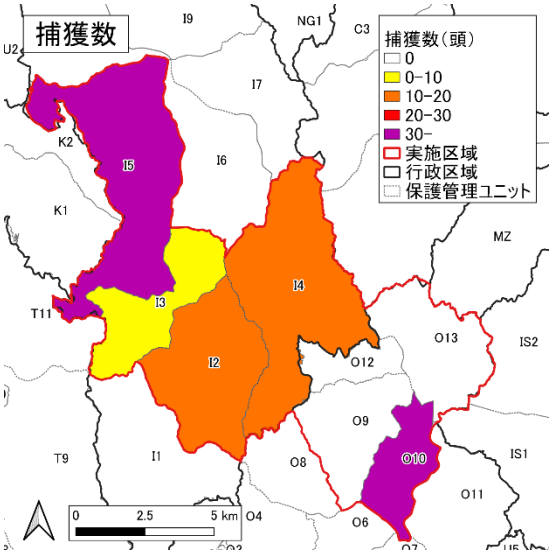

図１－２　捕獲数

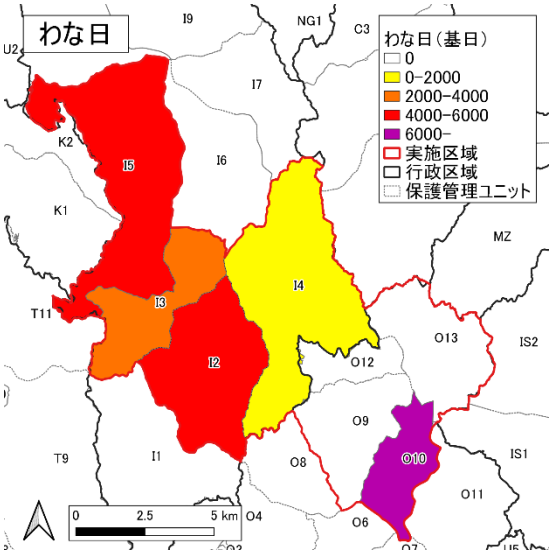

図１－３　わな日

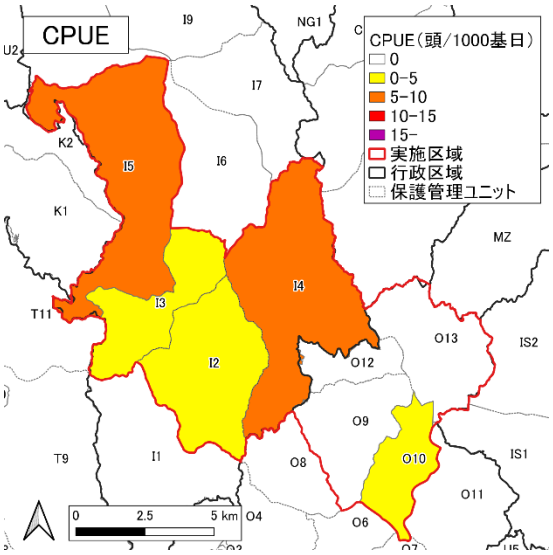

図１－４　CPUE

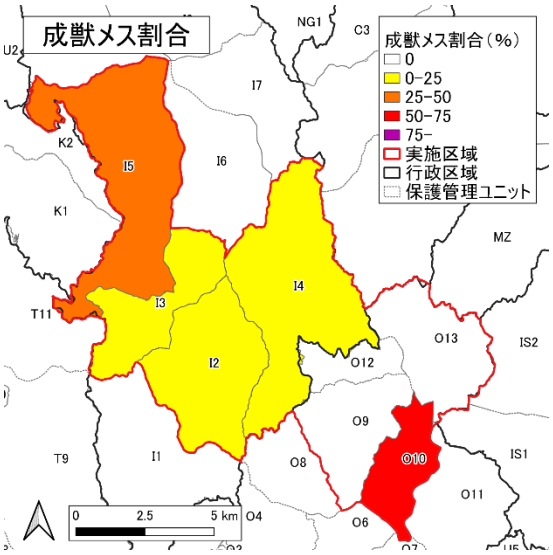

図１－５　成獣メス割合

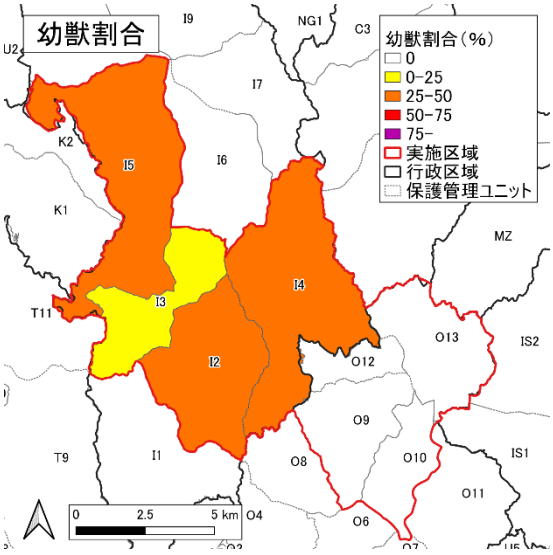

図１－６　幼獣割合

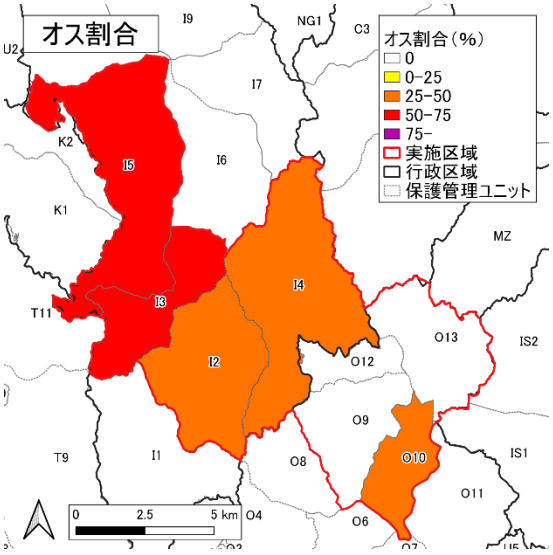

図１－７　オス割合

１－２　令和２～４年度事業における捕獲結果

- 全域では令和４年度は令和３年度と比較して、わな日、CPUE ともに増加した。
- 過去３年間では CPUE は市原市のユニットで減少傾向がみられた。
- 令和３年度と比較して幼獣割合は 21.01％と高い値を示した。ユニット別では I2、I4、I5 で 30％以上の値となった。
- 全域では成獣メス割合は過去３年間で微増傾向にあるが、ユニット別では市原市では横ばいもしくは減少傾向にあり、令和２、３年度に捕獲を行っていない大多喜町の O10 ユニットのみが高い成獣メス割合を示している。

表１－２　令和２-４年度のわな数

	ユニット	R2	R3	R4
市原市	I1	63		
	I2	52	95	63
	I3	78	96	84
	I4	33	8	24
	I5	55	44	46
大多喜町	O10			80
	O13	15		
	O9	135	80	
中部全域		431	323	297

表１－３　令和２-４年度のわな日

	ユニット	R2	R3	R4
市原市	I1	4,896		
	I2	2,397	4,880	4,020
	I3	3,889	4,818	3,144
	I4	1,709	349	1,716
	I5	2,195	3,135	4,916
大多喜町	O10			8,560
	O13	795		
	O9	9,165	8,400	
中部全域		25,046	21,582	22,356

表１－４　令和２-４年度の成獣メス割合

	ユニット	R2	R3	R4
市原市	I1	23.08		
	I2	35.71	27.59	25.00
	I3	37.50	23.53	20.00
	I4	50.00	40.00	21.43
	I5	38.46	26.09	27.27
大多喜町	O10			64.29
	O13	33.33		
	O9	42.86	48.48	
中部全域		35.71	33.64	38.66

表１－５　令和２-４年度の幼獣割合

	ユニット	R2	R3	R4
市原市	I1	25.64		
	I2	14.29	10.34	40.00
	I3	16.67	35.29	20.00
	I4	16.67	0.00	35.71
	I5	15.38	21.74	30.30
大多喜町	O10			0.00
	O13	0.00		
	O9	0.00	6.06	
中部全域		14.29	14.95	21.01

表１－６　令和２-４年度のオス割合

	ユニット	R2	R3	R4
市原市	I1	56.41		
	I2	50.00	68.97	40.00
	I3	50.00	58.82	60.00
	I4	33.33	60.00	50.00
	I5	46.15	60.87	57.58
大多喜町	O10			35.71
	O13	66.67		
	O9	57.14	45.45	
中部全域		52.14	57.94	46.22

表１－７　令和２-４年度の CPUE（1000 基日）

	ユニット	R2	R3	R4
市原市	I1	7.97		
	I2	5.84	5.94	4.98
	I3	6.17	3.53	3.18
	I4	7.02	14.33	8.16
	I5	5.92	7.34	6.71
大多喜町	O10			4.91
	O13	3.77		
	O9	3.82	3.93	
中部全域		5.59	4.96	5.32

２　生息状況調査の結果（県中部区域）

２－１　令和４年度調査結果

- 市原市の I2、及び大多喜町の O13 において比較的糞塊密度が高かった。
- 大多喜町のユニット O10 の撮影頻度がもっと高かった。
- 市原市のユニット I7 を除くすべてのユニットで成獣メスが撮影された。

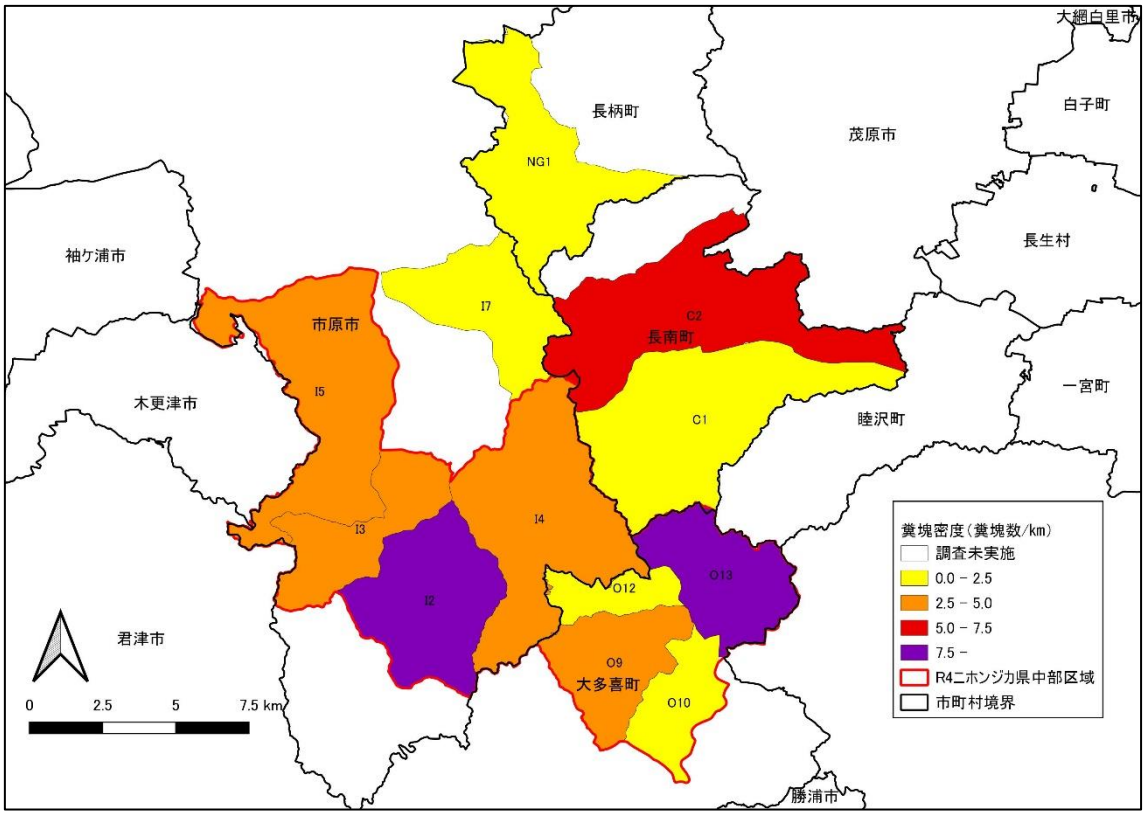

図２－１　シカの糞塊密度

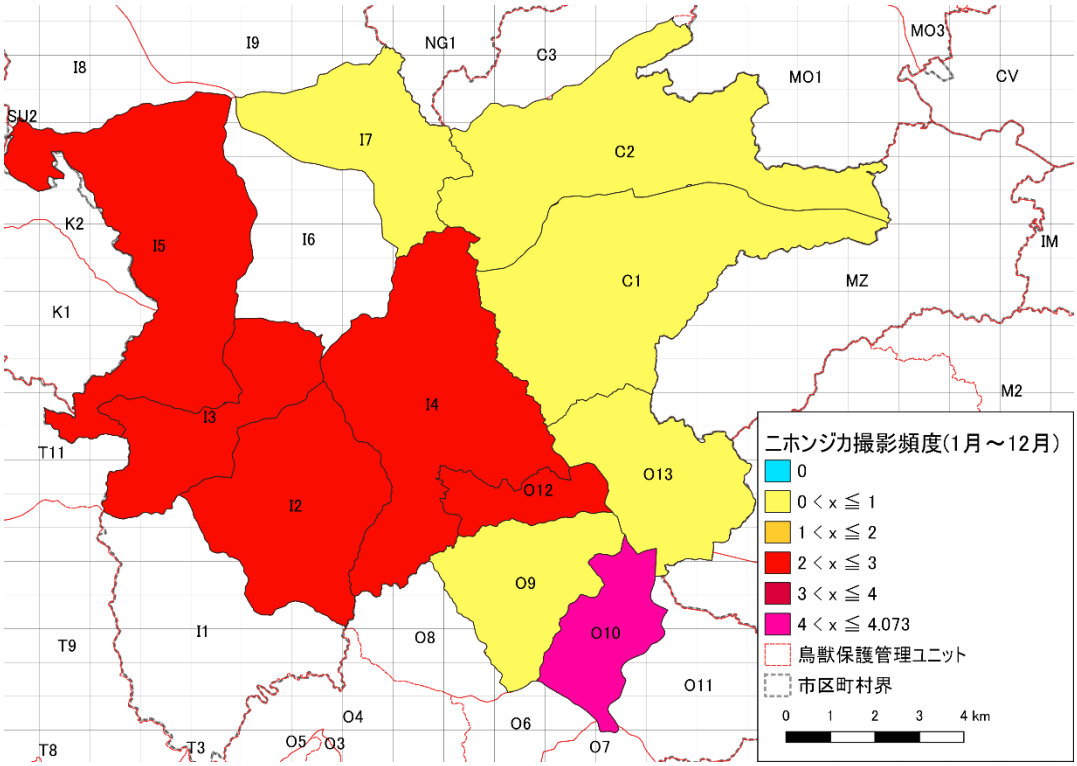

図２－２　シカの撮影頻度（令和４年１～12 月）

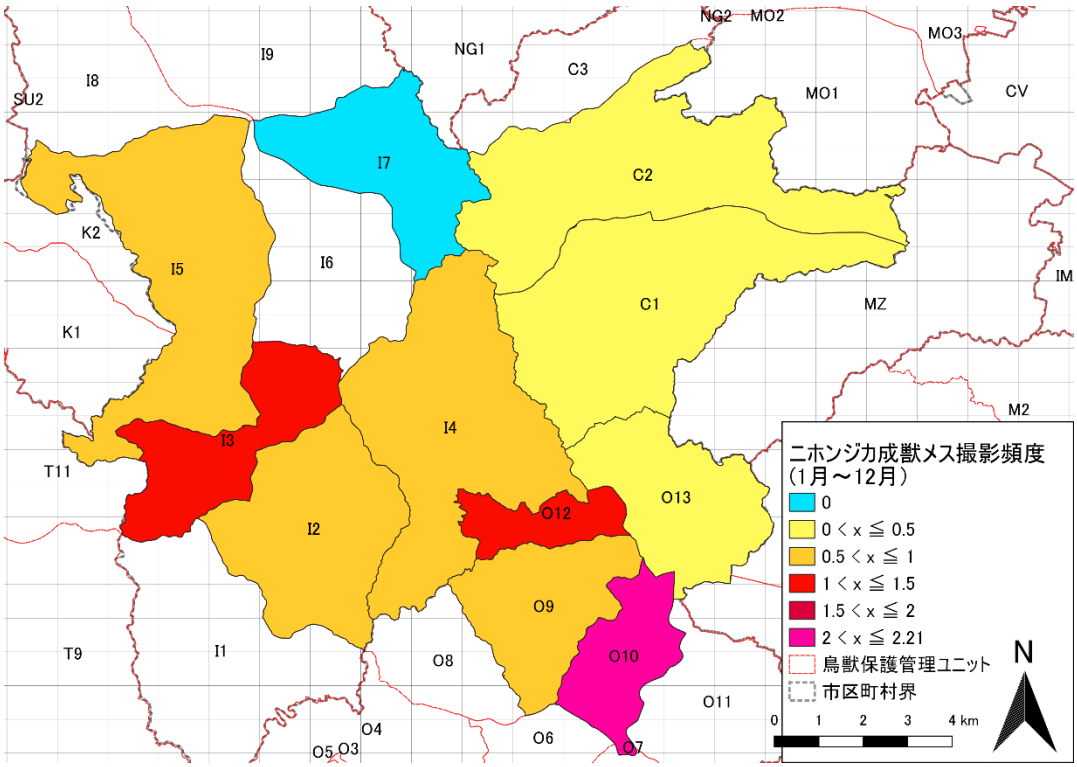

図２－３　シカ成獣メスの撮影頻度（令和４年１～12 月）

２－２　経年変化

- 新規を除く 11 のユニットの内、４つのユニット（長南町の C1、市原市の I5、I7、長柄町の NG1）において、調査開始年度と比較して令和４年度は糞塊密度が減少している。
- 11 のユニットの内、令和３年度と比較して令和４年度は増加したのは４ユニット、減少したのは７ユニットだった。
- 長南町のユニット C2、市原市のユニット I3、I4、I5、大多喜町のユニット O9、O10、O13 においてシカの撮影頻度の増加が確認され、そのうち長南町のユニット C2、市原市のユニット I3、大多喜町のユニット O9、O13 において成獣メスの撮影頻度の増加が確認された。
- 長南町のユニット C1、市原市のユニット I2、I7 大多喜町の O12 において撮影頻度が減少した。

表２－１　平成 27 年度から令和２年度までのユニットごとの糞塊密度の比較

ユニット	H27	H28	H29	H30	H31	R02	R03	R04
	痕跡密度（個/km）	痕跡密度（個/km）	痕跡密度（個/km）	痕跡密度（個/km）	痕跡密度（個/km）	痕跡密度（個/km）	痕跡密度（個/km）	痕跡密度（個/km）
C1	-	-	-	-	-	4.45	1.25	1.17
C2	-	-	-	-	-	-	0.63	6.95
I2	0.00	0.28	5.28	3.61	17.67	12.43	12.15	8.90
I3	-	-	1.70	3.21	9.51	12.43	1.55	4.85
I4	0.30	0.29	4.85	0.59	10.31	6.00	5.54	3.97
I5	-	-	-	5.85	21.33	10.52	9.05	4.92
I7	-	-	-	-	2.56	1.99	3.98	1.42
NG1	-	-	-	-	-	5.19	0.31	0.92
O10	-	-	-	-	-	-	-	2.30
O12	0.30	0.29	5.29	1.18	9.41	7.36	2.67	2.01
O13	0.00	0.00	3.13	0.31	4.16	6.40	4.16	8.21
O9	0.34	0.67	4.67	2.67	12.08	16.80	4.80	2.76

密度低　密度高

※糞塊数及び糞塊密度には、10 粒以上の新鮮度「新」及び「中」の糞塊のみを用いた。
※「－」は調査を実施していない、または比較できないことを示す。

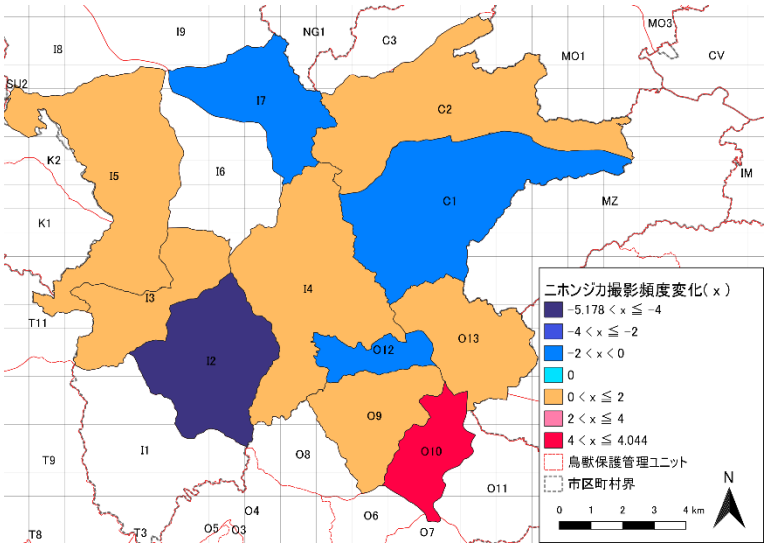

図２－４　シカのユニットごとの令和３～４年度にかけての撮影頻度の変化
（2021 年１月～12 月と 2022 年１月～12 月の比較）

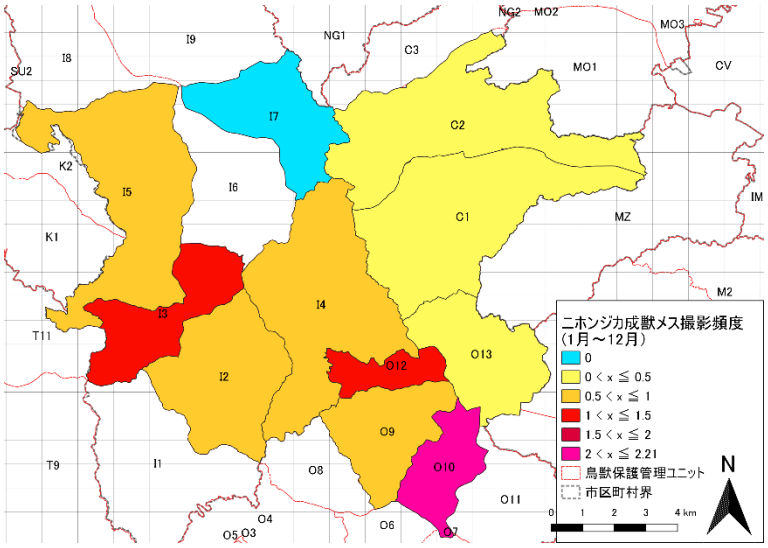

図２－５　シカ成獣メスのユニットごとの令和３～４年度にかけての撮影頻度の変化（2021 年１月～12 月と 2022 年１月～12 月の比較）